

アルトリコーダー ～ 曲にあったふさわしい表現方法とは・・・ ～

本題材で育成する資質・能力

(教科)曲にあったふさわしい表現方法を工夫できる態度
(学校)主体性、表現力、コミュニケーション能力

- 1 日時 平成30年11月16日 14:35～15:25
- 2 学年 第1学年3組 (男子16名 女子13名 合計29名)
- 3 場所 音楽室
- 4 題材について

- 本題材は、中学校学習指導要領音楽(平成20年)の第1学年「A表現」(2)ア「曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること。」イ「楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。」を扱う。

本題材で付きたい力は、曲想を感じ取り、表現したい思いや意図をもって表現を工夫して演奏する力や楽器の特徴をとらえ基礎的な奏法を身に付けて演奏する力である。

「曲想」とは、その音楽固有の表情や味わいなどのことである。「曲想を感じ取る」ことは、音楽を形づくっている要素や構想の働きをとらえることが基になる。「表現を工夫して演奏する」とは、表現したい思いや意図をもち、要素の働かせ方を試行錯誤し、よりよい表現方法を見出すて演奏することである。本題材では、音色とアーティキュレーションから曲想を感じ取り、ふさわしい音色やアーティキュレーションの表現を求めながら、タンギングや息づかいを工夫する。

「楽器の特徴をとらえる」とは、その楽器固有の音色や響き、よさなどをとらえることで、「基礎的な奏法」とは、楽器の初歩的な演奏奏法であり、楽器の音や奏法の特徴を基に意欲をもって表現することである。

本題材で取り扱う「聖者の行進」は左手の運指だけで吹ける曲であり、初歩的な奏法の習得や表現の工夫を行いやすい楽曲である。また、二声部になっており、ペアで表現の工夫を行うことができ、習得していく中で、「こう演奏したい!」という思いや意図を持って演奏することで思考力や表現力を育成できる。基礎的な奏法の習得、表現の工夫を行っていることで、他の声部の響きを感じ取らせ、他の声部の音色を聴きながら表現の工夫を行うことができ、協調性を育むことができる題材である。

- 本学級の生徒は音楽の授業に満足している生徒は96%というアンケートの結果から、音楽に関心を持っている生徒が多い。

合唱の題材を終え、歌って表現するという意識が高くなり、一学期よりも授業内での声量も多くなった。また、鑑賞曲「魔王」を鑑賞し、表現の工夫をすることで一人の歌手が四人の登場人物を歌い分けることを学習した。また、曲想を感じ取り、全員で歌唱し、一人ひとりが表現の工夫を行った。この授業で、「四人の声が一人ずつ違い怖さもあった。」「いろいろな感じ方や言い表し方があってなるほどと思った。」や「実はそれぞれの声に工夫がされていることが分かった。それぞれ違う声のように聴こえる。」という感想を持つ生徒がいた。しかし、音楽のまとめを行う中で、音楽の要素によって、曲想が作られていることを、文章で書いてまとめられる生徒は少ない。

ソプラノリコーダーに関するアンケートから次のような結果が見られた。

質問内容	肯定的回答率 (%)
音楽表現の工夫とはどのようなものですか。	52%
曲想とはどのようなことですか。	24%
リコーダーを演奏することは好きですか。	60%
小学生の時に使用したリコーダーの正式名称を知っている。	12%
リコーダーの運指を覚えている。	80%

この結果から、ソプラノリコーダーの運指は覚えているが、演奏することに関心を持っている生徒は少ない。また、楽器の構造や奏法についての知識や表現の工夫についての定着はできていない。

- 指導にあたっては、様々なアーティキュレーションを試し、アーティキュレーションの違いで曲想の違いを感じ取らせ演奏させ、言葉や文章でも自分の思いを表現させたい。「聖者の行進」では、音色、アーティキュレーションの工夫を行い、演奏させたい。班活動で自分の思いを伝えられるように、ワークシートに思いや意図をもたせたい。そのために、情報収集の場面で、アーティキュレーションの違いを感じ取らせ、文章でまとめさせる。また、整理・分析場面では、自分が感じ取り、思考したことを班で発表し合い、曲がもつ曲想やアーティキュレーションの表現を工夫させる。その際、個人思考では、書く活動を取り入れ自分の思いや意図をもたせる。

また、本学級の生徒の中には歌唱や鑑賞などの音楽活動への興味・関心をもてない生徒もいる。題材の導入のみならず、毎時の授業の導入部を工夫したり、前向きに取り組む態度・行動に対して肯定的評価を行ったりし、意欲的になれるように働きかけたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科、領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定し、学習班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3
知識・スキル	表現力・コミュニケーション能力	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）		
		（話す） 自分の考えや意見を、自分のことばで、表現することができる。	わかりやすく（伝える） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、自分のことばで、表現することができる。	（説得する） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で、表現することができる。
		（聞く） 相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、聞いている。	（聴く） 話の組み立て構造を考えながら、相手の意図や要点を整理しながら、聴くことができる。	（訊く） 相手の考えについて根拠の信頼性を判断しながら、訊くことができる。話された内容と自分の意見をふまえて疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。
	聞いて質問することができる。 （やりとり1回）	さらに深めた質問ができる。 （やりとり2回）	質問の後に自分の意見を述べ、内容を深めることができる。 （やりとり3回以上）	
意欲・態度	主体性	課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで、取り組もうとしている。	自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで、取り組もうとしている。

6 題材の目標

- 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付ける。(音楽への関心・意欲・態度)
- 基礎的な奏法を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(音楽表現の創意工夫)
- リコーダーの特徴、基礎的な奏法を生かした音楽表現をするために必要な奏法、呼吸法、姿勢や身体の使い方などの技能を身に付けて演奏している。(音楽表現の技能)

7 題材の評価規準

音楽への意欲・関心・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
・リコーダーの特徴(楽器の構造や奏法、音色や響き、よさ)、基礎的な奏法(タンギング、アーティキュレーション)に関心をもち、それを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	・リコーダーの音色、アーティキュレーションを知覚し、それらが見いだす特質や雰囲気を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	・リコーダーの特徴、基礎的な奏法を生かした音楽表現をするために必要な奏法、呼吸法、姿勢や身体の使い方などの技能を身に付けて演奏している。

8 指導計画(全5時間)

過程	次	学習内容(時数)	観 点			評 価	
			関意	工夫	技能	評価規準	資質・能力(評価方法)
プロローグ(題材を貫く問い) 音楽を形づくっている要素と曲想はどのような関係があるのだろうか?							
課題の設定・情報収集	1	パフォーマンス課題を提示し、ゴールの見通しを持つ。ソプラノリコーダーとアルトリコーダーを吹き比べ、音色構造、奏法の違いについて学ぶ。アルトリコーダーの曲を鑑賞し、どのくらいの音量を出す楽器なのか聴き取る。左指で演奏できる、ド・レ・ミ・ファ・ソの音を出しながら、よりよい音の出し方をグループで考える。(1時間) 【本時1/1】	○			リコーダーの特徴(楽器の構造や奏法、音色や響き、よさ)、基礎的な奏法(タンギング、アーティキュレーション)に関心をもち、それを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	【主体性】(ワークシート, 行動観察)

単元を貫く問い

整理・分析	2	ド・レ・ミ・ファ・ソの運指を覚え、正しいタンギングを身に付ける。アーティキュレーション（スタッカート奏法、ポルタート奏法、レガート奏法）を身に付ける。「聖者の行進」の楽譜に階名を書き、運指を覚え、練習を行う。（1時間）		○	リコーダーの音色、アーティキュレーションを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	【表現力】（ワークシート、行動観察）
創造・表現	3	「聖者の行進」の旋律の感じを捉え、アーティキュレーションを工夫して演奏する。個人思考をして、グループで話し合いより良い奏法の工夫を考え深める。（1時間）		○	リコーダーの特徴、基礎的な奏法を生かした音楽表現をするために必要な奏法、呼吸法、姿勢や身体の使い方などの技能を身に付けて演奏している。	【主体性】（ワークシート、行動観察）
まとめ	4	「聖者の行進」の奏法の工夫をグループで演奏し、発表するにふさわしい演奏がでるまで練習し改善を行う。（1時間）		○	リコーダーの特徴、基礎的な奏法を生かした音楽表現をするために必要な奏法、呼吸法、姿勢や身体の使い方などの技能を身に付けて演奏している。	【コミュニケーション能力】（ワークシート、行動観察）
実行・振り返り	5	各グループで発表を行い、どのグループの演奏がより素敵な音楽になっていたか、生徒同士で評価をし合う。（1時間）		○	リコーダーの特徴、基礎的な奏法を生かした音楽表現をするために必要な奏法、呼吸法、姿勢や身体の使い方などの技能を身に付けて演奏している。	【曲にあったふさわしい表現方法を工夫する態度】（ワークシート、行動観察）
エピソード（題材を貫く問いの解決）		曲想を感じ取ることで、音楽の要素を理解し様々な表現の工夫ができる。また、音楽を形づくっている要素を理解することで、曲想の感じ取り方が深まり表現の質も高まっていく。				

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○アルトリコーダーの楽器の特徴を捉え、ふさわしい音や奏法で演奏することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・リコーダーの特徴（楽器の構造や奏法、音色や響き、よさ）、基礎的な奏法（タンギング、アーティキュレーション）に関心を持ち、それを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。（音楽への関心・意欲・態度）

(3) 準備物

P C, ワークシート

(4) 学習の流れ (1 時間目 / 全 5 時間)

導入の工夫

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力 (評価方法)
1 導入。[3分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダーの「聖者の行進」の演奏をテレビで見る。学習の見通しを持つ。 	◇ゴールイメージを持たせる	
2 本時の課題を設定する。[5分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・教諭がソプラノリコーダーとアルトリコーダーを演奏し、音色の違いを聴き分ける。 	◇音色の違いから楽器の大きさにも焦点をあて、聴きとらせる。 <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・音が高い。 ・音が低い。 </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 学習課題：曲にあったふさわしい表現方法を工夫して演奏しよう。 </div>		
3 ねらいを確認する。[2分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを自己評価ノートに記入する。 		
<div style="border: 3px double black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ねらい ○アルトリコーダーの楽器の特徴を捉え、ふさわしい音や奏法で演奏することができる。 </div>		
4 情報を整理・分析する。[15分]		
<ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダーを組み立て、楽器の構造や運指、音の出し方について知る。 ・CDでアルトリコーダーの演奏を聴き、音色やどのくらいの音量を出しながら演奏する楽器なのかを聴きと 	◇合図があるまで音を出させないことを徹底させる。 ◆楽器の持ち方やくわえ方など基本的な奏法を身に付けるために、写真を使い視覚的支援を行う。 ◇全体で音色やどのくらいの音量を出す楽器なのか、演奏しながら確認を行う。 ◇ミュージックノートにド・レ・ミ・ファ・ソの運指と	リコーダーの特徴 (楽器の構造や奏法、音色や響き、よさ)、基礎的な奏法 (タンギング、アーティキュレーション) に関心をもち、それを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとし

小グループの活用

思考を深める学び合い

る。 ・ド・レ・ミ・ファ・ソの運指を確認し、音階を演奏する。	階名を書かせる。 ◇タンギングを意識させながら演奏させる。	ている。 【思考力】(ワークシート, 行動観察)
-----------------------------------	----------------------------------	-----------------------------

5 思考を深める学び合い [20分]		
・個人でアルトリコーダーのふさわしい奏法(音の出し方)を研究し、グループで演奏し合い、よりふさわしい奏法を考え技能の習得を図る。 ・グループで考えたふさわしい奏法(音の出し方)を全体で交流する。	◇自分の思いを言葉と演奏で表現をする。 ◆うまく音が出せない生徒には、グループの中でうまく音が出せている生徒を参考にしよう助言を行う。 ◇短い言葉でまとめさせ、短冊に書かせる、黒板に貼る。 ◇同じ表現の工夫を行ったところには、色ペンでグルーピングを行う。 ◇違う表現の工夫があれば、様々な奏法を試し、じっくりくるものを選ばせ、表現方法を一つに絞る。 ◇音で変化を感じ取らせる場を設定し、次時に繋げる。 <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"><ul style="list-style-type: none">・指穴をしっかりとふさぐ。・タンギングをしっかりと行う。・トゥーと言いながら吹く。・運指を覚える。・姿勢を正し、正しく構える。</div>	★【表現力】(ワークシート, 行動観察)

6 本時を振り返り、次時につなげる。[5分]		
・振り返りを書く。	◇振り返りの視点をもとに振り返りを行わせる。	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"><p>生徒の振り返り</p><ul style="list-style-type: none">・リコーダーには、ソプラノリコーダーやアルトリコーダーのように、名前があることを知った。・楽器の大きさで音の高さや音色が違うことを感じた。・リコーダーによって、出せる音量が違うことを知った。・ソプラノリコーダーとアルトリコーダーは運指が違うことが分かった。・音の出し方や運指を覚えたので、曲に生かしたい。</div>		

<p>・振り返りを発表する。</p>	<p>◇振り返りを元にゴールイメージを具体化させる。パフォーマンス課題の提示を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>パフォーマンス課題</p> <p>本校で、1年生を対象にクラスごとでリコーダーアンサンブルのコンクールを行います。</p> <p>4人～3人組を1グループとし、課題曲を演奏してもらいます。これから学習する楽器の鳴らし方や奏法をグループで研究し、よりよい表現方法で演奏してください。</p> <p>審査員は、みなさんにしてもらい、グランプリ1グループを決め表彰を行います。</p> </div>	
--------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	基礎的な奏法を身に付け（ふさわしい表現，構え方，運指の定着，タンギング），ド・レ・ミ・ファ・ソの演奏ができる。
B（合格）	基礎的な奏法を身に付け（構え方，運指の定着，タンギング），ド・レ・ミ・ファ・ソの演奏ができる。
C（乗り越えさせた実態）	基礎的な奏法を身に付け（構え方，タンギング），ド・レ・ミ・ファ・ソの演奏ができる。

(5) 板書計画

<p>学習課題 曲にあったふさわしい表現方法を工夫しよう。</p> <p>ねらい アルトリコーダーの楽器の特徴を捉え、ふさわしい音や奏法で演奏することができる。</p> <p>曲 聖者の行進</p> <p style="text-align: center;">学習の流れ</p> <ol style="list-style-type: none">1 課題の設定2 リコーダーの基礎3 リコーダー練習 個人 ➡ グループ4 全体交流6 まとめ・振り返り	<p style="text-align: center;">パフォーマンス課題</p> <p>本校で、1年生を対象にクラスごとでリコーダーアンサンブルのコンクールを行います。 4人～3人組を1グループとし、課題曲を演奏してもらいます。これから学習する楽器の鳴らし方や奏法をグループで研究し、よりよい表現方法で演奏してください。 審査員は、みなさんにしてもらい、グランプリ1グループを決め表彰を行います。</p> <p style="text-align: center;">運指表</p>	<p style="text-align: center;">グループでまとめた短冊</p> <table border="1" style="width: 100%;"><tr><td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">2</td></tr><tr><td style="text-align: center;">3</td><td style="text-align: center;">4</td></tr><tr><td style="text-align: center;">5</td><td style="text-align: center;">6</td></tr><tr><td style="text-align: center;">7</td><td style="text-align: center;">8</td></tr><tr><td style="text-align: center;">9</td><td></td></tr></table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1	2											
3	4											
5	6											
7	8											
9												